



## 校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥  
令和元年7月30日  
☎55-2260 第4号

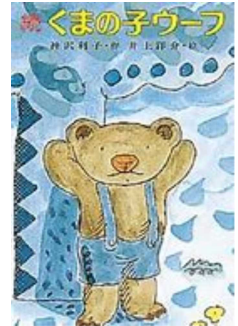
### 教育目標

ふるさとに誇りをもち  
夢と希望に満ちた  
心豊かでたくましい児童の育成



## 「くまの子ウーフ」

本屋に行って「くまの子ウーフ」という絵本をたまたま目にしました。なんとなく惹かれる感じがしたので手に取ってみるとストーリーは理解できたのですが、物語からどんなことを言いたいのかよく分かりませんでした。そこで、後日作者や物語の原文をもう一度読み返してみました。作者は神沢利子さんという方で、絵本などをたくさん書いている有名な方でした。物語のあらすじは以下のとおりです。



くまの子ウーフは、毎朝ニワトリ小屋に出かけて行きます。するとニワトリが卵を一個産みます。翌日行くと同じように卵をまた産みます。毎日毎日それを見ていて、ウーフはある大発見をします。

それは、“ニワトリの体の中は卵でいっぱい、それでニワトリは毎日卵を産む。だからニワトリの体は、たくさんの卵でできているんだ”とすることでした。

そんな発見をしたウーフは、友達のきつねのツネタ君に自慢をします。「ツネタ君、ニワトリの体は何でできてるか知ってる？…ニワトリの体は卵でできているのだよ。だから毎朝、卵を産むんだよ。」と得意気に言います。そこでツネタ君は「じゃ、ウーフ、君は毎朝何をするんだい？」と聞き返されます。「ぼく…、ぼくは毎朝オシッコ！」「すると、ウーフはオシッコでできているのか！」とやり込められます。それを聞いたウーフは悲しくて、泣きながらその場から駆け出します。すると坂道でころんで、足から血が出ます。ウーフはそこで、「ぼくはオシッコだけじゃない、血も涙も出る。」と気づきます。その後、ウーフはすごく浮き浮きした気分でお家に帰り、お母さんに尋ねます。「お母さん、ぼくは何でできていると思う？」と。「さあーね。」と言うお母さんに、ウーフは胸を張って「ぼくはね、ぼくでできているんだよ。」と言うのです。

このお話に、現在の学校が目指しているものを強く感じます。ウーフは自分の目で確かめたことを元に考えを進めます。そして友達の意見を手がかりに、さらに考えを深め、そして自分で体験をし、悩み、最後にはすばらしい結論を導き出していきます。

“自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら解決する” 現在、学校が子どもにつけたい力の一つが、そこにあると思います。ウーフのこんな生き方などを知り、子どもがそれを手がかりに、そんな学習の仕方を少しずつでも身につけてほしいと願っております。

また、夏休みは休みにしかできない読書をし、基礎的読解力を身に付けてほしいと思っています。